

# 野澤 松也

Matsuya Nozawa

歌舞伎義太夫三味線奏者へ竹本連中へ  
重要無形文化財総合指定保持者へ伝統歌舞伎保存会会員へ



現在、松竹歌舞伎（東京 歌舞伎座、国立劇場、新橋演舞場、京都南座、大阪 松竹座、名古屋 御園座、福岡 博多座、等）で演奏。  
同時に、国立劇場研修生講師、学習院大学非常勤講師を務めるなど、演奏家、講師として活動中  
舞台を務める傍ら、ライフワークとして、昔話や民話、土地に伝わる話等を浄瑠璃風にアレンジした作品に作曲し、弾き語りで伝えている。

一九五五年 広島市生まれ  
一九六九年 母の勧めで三味線を始める（当時一四歳）  
一九七二年 国立劇場第一期文楽研修生になる  
一九七四年 研修終了。野澤松之輔の内弟子となる  
同年四月、国立劇場文楽公演で初舞台  
一九七九年 松竹歌舞伎に入る  
国立劇場『仮名手本忠臣蔵』で歌舞伎の三味線方として初舞台  
一九九九年 重要無形文化財総合指定保持者になる  
二〇〇四年 『創作浄瑠璃の会』設立

創作浄瑠璃の弾き語り活動開始

## 300年の歴史を持つ歌舞伎

ユネスコの無形文化遺産のひとつに選ばれた歌舞伎は、時代物、世話物、松葉目物と大きく3つに分けられます。その3つの中に、義太夫狂言があります。義太夫狂言とは文楽から歌舞伎に移行された狂言です。義太夫狂言には舞台上手に床があり、その上で語りの太夫と三味線奏者が役者の動きに合わせてナレーションし、舞台を盛り上げます。

日本では13名の歌舞伎義太夫三味線奏者が歌舞伎を支えています。昔、海外ではジャポニズムブームで、数多くの有名画家にも影響を与えた浮世絵、その中でも歌舞伎役者を描いた「役者絵」は大変人気でした。

野澤松也は、歌舞伎の舞台で三味線を弾く傍ら、ライフワークとして2004年から「創作浄瑠璃の会」を設立し、昔話や民話、土地に伝わる話、小説などをわかり易い言葉に変え、作曲をし、「創作浄瑠璃」として、弾き語りをしています。もっと沢山の方に、歌舞伎や文楽、浄瑠璃を親しんでいただきたい、との思いで全国各地で公演をし、学校や幼稚園、老人介護施設などでも演奏をしたり、実際に三味線に触れて頂いたりしています。

歌舞伎や文楽に欠かせない、義太夫三味線の演奏による“語り物”音楽「浄瑠璃 JORURI」の世界を、是非ご堪能ください。野澤松也の魅力あるお話も好評です。

<創作浄瑠璃>

『広島咲希望花カンナ』、『友情泣赤鬼物語』、『送り拍子木』、『艶姿女舞衣』、『降積雪六傘地蔵』、『役者演魔大王』、『送り提灯』、『天晴桃乃鬼退治』、『灯り無し蕎麦屋』、『暴猿子蟹仇討譚』、『人間椅子』、など